

- 追加：高橋 豊（天理よろず相談所病院血液内科）
- ・私共の検討では、クエン酸による脱鉄処理で大体95%近く血清鉄を分離除去されるので、この点の error は僅小であると考えられる。
 - ・高 UIBC 検体に対し incubation 時間を延長することで確に誤差を是正出来るがそれだけで不十分な場合があり添加鉄の対血清量を増加させることも必要かと考える。

*

14. Res-O-Mat ETR 法の臨床的評価

高坂 唯子 森 徹 浜田 哲
 （京都大学 放射線部）
 鳥塚 莞爾
 （同 放射線科）
 竹田 洋裕 池窪 勝治
 （同 第2内科）

最近 Mallinckrodt 社により開発された Res-O-Mat ETR test について若干の検討を行なった。

方法は test vial に被検血清より抽出した thyroxine および原血清 0.005ml を加えた後に Res-O-Mat strip を加え、室温で1時間、回転混和後、strip を取り除き計数する。Effective Thyroxine Ratio (ETR) は標準血清 vial の計数値と被検血清 vial の計数値の比で表わされる。

incubation の時間、温度については、それぞれ60分間、室温が適当と考えられた。また本法の再現性は良好であり、添加血清量については妊娠などの TBG 異常例において 0.005ml の血清添加により正常値を取ることが確認された。また各種疾患および各種添加血清量における vial 中の計数値は実測値および理論的に算出した全 thyroxine 量と全 TBG 量の比との間に直線関係が認められた。

健常人82例、各種甲状腺疾患患者53例に測定したが、正常値は0.87—1.13に分布し、機能亢進症は高値に、機能低下症は低値に分布して、重なり合いは少なく、すぐれた甲状腺機能の指標と考えられた。また本法による測定値は Triosorb 値、Tetrasorb 値との間の相関に比して、Triosorb 値、Tetrasorb 値より算出された Free Thyroxine Index との間にすぐれた相関関係（相関係数：0.92）が認められた。

以上により ETR 法は手技も簡便であり、TBG 異常

に関係なく甲状腺機能を示し、臨床上 screening 法として有用と考えられた。

質問： 越智 幸男（京都府立医大 第2内科）
 Free T₄ index と Resomat ETR の相関について
 答：

Free Thyroxine 実測値と直線関係を有するわれわれの Free T₄ Index (Tetrasorb×Triosorb/(1-0.6 Triosorb)) と ETR の相関係数は、全測定例では0.916で、Tetrasorb、または Triosorb 単独より良い相関を示すが、疾患例にみると、正常者、妊娠、機能低下では良好な相関を示すが、機能亢進症では0.52で、良くないことが認められた。

*

15. 甲状腺の放射性沃度活性の変動特に KClO₄ の影響について

中西 義明 前田 知穂
 （神戸大学 放射線科）
 熊野 町子 松本 晃 小倉 一
 （同 第2内科）

Na ¹³¹I 100μCi 経口投与24時間後 ¹³¹I uptake ratio を測定し、シンチカメラにてフォト像を描画しその後 0.1% KClO₄ 溶液 150cc を経口投与し10分後より10分間隔でシンチフォトを撮影し VTR に収録した。再生では甲状腺の全葉と不均等集積部に Split area を設け KClO₄ による discharge curve を測定した。対象は正常1例橋本氏病3例バセドー氏病1例単純性甲状腺腫1例の計6例である。I に類似の容積をもつ1価のイオン ClO₄⁻ は I⁻ との競合作用により甲状腺にとり込まれ I⁻ の active transept 障害を阻害すると共に無機ヨードを排出するといわれている。正常あるいはバセドー氏病では取り込まれた ¹³¹I は有機合成されている。しかし橋本氏病では治療、未治療にかかわらず無機ヨードの有機合成障害がみとめられる。Discharge rate は split area を設けた方がより著明に表れる。本法によると甲状腺内の有機合成障害の程度がかなり明確にされると思われる。

以後症例を増やし肺瘍を有する甲状腺疾患の鑑別診断の一助となし得たい。

*